

1.	③	11.	②	21.	④	31.	③	41.	②
2.	④	12.	④	22.	③	32.	④	42.	④
3.	③	13.	②	23.	③	33.	④	43.	③
4.	④	14.	③	24.	④	34.	④	44.	①
5.	④	15.	③	25.	④	35.	③	45.	③
6.	①	16.	③	26.	③	36.	①	46.	①
7.	③	17.	③	27.	②	37.	③	47.	②
8.	①	18.	①	28.	④	38.	④	48.	③
9.	③	19.	②	29.	①	39.	②	49.	④
10.	①	20.	①	30.	③	40.	②	50.	③

1.

解答 ③

【解説】

正解は③の`male`で、名詞として「男性、雄」、形容詞として「男性の、雄の」という意味を持ちます。人間だけでなく、動物や植物の雄（おす）を指す場合にも使われ、生物学的な性別を客観的に示す公式な言葉です。`All applicants, male or female, will be considered equally.`（応募者は男女問わず、平等に考慮されます）。他の選択肢は、①`mail`が「郵便」、②`meal`が「食事」、④`man`が一般的な「(大人の) 男性」を指します。

◆補足：`male`の対義語は`female`（女性、雌）です。書類の性別欄などで`M`（Male）と`F`（Female）という略記が使われることもあります。一般的な会話では`man`や`boy`が使われるのに対し、`male`は統計や科学的な文脈で性別を区別する際に好まれます。

2.

解答 ④

【解説】

正解は④の『exchange』です。この単語は、お互いに何かを渡し合う、つまり「～を交換する」という相互の行為を表す動詞です。プレゼント、情報、意見、お金（両替）など、様々なものを対象に使うことができます。この「相互の」という点がポイントです。他の選択肢を見てみましょう。①の『collect』は、一方的に「～を集める」という行為です。②の『provide』は、こちらも一方的に「～を提供する、与える」という意味になります。③の『receive』は、逆に一方的に「～を受け取る」という行為を指します。これらの単語は交換という行為の一部分を表すことはありますが、交換そのものを意味するわけではないため、『exchange』が最も適切だと言えます。

◆補足：『exchange』は名詞としても使え、「交換」という意味になります。例えば、「為替レート」は "foreign exchange rate" と言います。また、「交換留学生」は "exchange student" と呼ばれます。例文: "We exchanged email addresses after the meeting." (会議の後、私たちはメールアドレスを交換しました。)

3.

解答 ③

【解説】

正解は③「～を置き忘れる、～を後に残す」です。`leave behind` ～`は、うっかり物をどこかに忘れてきてしまうことや、自分が先に進むことで人や場所を後に残していく状況を表します。`I accidentally left my textbook behind at school.` (私はうっかり学校に教科書を置き忘れてしまった) のように使います。①「～を拾い上げる」は`pick up` ～`、②「～を片付ける」は`put away` ～`、④「～を提出する」は`hand in` ～`や`turn in` ～`が適切な表現です。

◆補足：目的語が`it`や`me`のような代名詞の場合は、`leave it behind`や`leave me behind`のように、`leave`と`behind`の間に置くのがルールです。`The storm left a lot of damage behind.` (その嵐は多くの被害を後に残した) のように、比喩的に「(結果として) ～を残す」という意味でも使われます。

4.

解答 ④

【解説】

正解は④「太平洋」です。the Pacific Ocean は、アジア、オーストラリア、南北アメリカ大陸に囲まれた世界最大の海洋です。Pacific は「平和な、穏やかな」という意味の形容詞です。①「大西洋」は the Atlantic Ocean、②「インド洋」は the Indian Ocean、③「日本海」は the Sea of Japan です。Ocean (大洋) や Sea (海) などの特定の地理的な名前には、原則として定冠詞の the が付きます。

◆補足：世界の五大洋は、`the Pacific Ocean` (太平洋)、`the Atlantic Ocean` (大西洋)、`the Indian Ocean` (インド洋)、`the Arctic Ocean` (北極海)、`the Antarctic/Southern Ocean` (南極海) です。地図を見ながら英語名を覚えると、記憶に残りやすくなります。

5.

解答 ④

【解説】

正解は④「技能、技術、腕前」です。`skill`は、訓練や学習を通して習得した、何かをうまく行うための専門的な能力を指します。`This job requires special skills and experience.` (この仕事には専門的な技術と経験が必要だ)。①「知識」は`knowledge`、②「才能」は`talent`、③「経験」は`experience`

です。`talent`が生まれつきの才能を指すことが多いのに対し、`skill`は後天的に身につけた技術というニュアンスが強いのが特徴です。

◆補足：形容詞形は`skilled`（熟練した）や`skillful`（巧みな）です。`He is a skillful driver.`（彼は運転がうまい）。コロケーションとしては、`communication skills`（コミュニケーション能力）、`problem-solving skills`（問題解決能力）、`develop a skill`（技能を伸ばす）などがよく使われます。

6.

解答 ①

【解説】

正解は①「～を満たす、いっぱいにする」です。`fill up ~`は、容器や空間を液体、物、人などでいっぱいにすることを表す熟語です。`He filled up the bathtub with hot water.`（彼はお風呂を熱いお湯でいっぱいにした）のように使います。ガソリンスタンドで「満タンにする」という意味でも頻繁に使われます。②「～を拾い上げる」は`pick up ~`、③「～をあきらめる」は`give up ~`、④「～を調べる」は`look up ~`や`check up ~`などが適切な表現です。

◆補足：動詞の`fill`だけでも「～を満たす」という意味はありますが、`up`が付くことで「完全に、上まで」というニュアンスが加わり、動作の完了が強調されます。また、`The classroom quickly filled up.`（教室はすぐにいっぱいになった）のように、目的語を取らずに「いっぱいになる」という自動詞としても使われます。

7.

解答 ③

【解説】

正解は③の`knowledge`で、学習や経験を通じて得られる「知識、情報、理解」を意味します。`He has a wide range of knowledge about computers.`（彼はコンピュータに関する幅広い知識を持っている）のように使います。他の選択肢は、①`notice`が「通知、注目」、②`novel`が「小説」、④`nature`が「自然、性質」という意味です。

◆補足：`knowledge`は動詞`know`（知っている）の名詞形です。文法的には数えられない名詞として扱われるのが基本で、`a lot of knowledge`や`some knowledge`とは言いますが、`a knowledge`や`many knowledges`とは通常言いません。`general knowledge`（一般知識）、`expert knowledge`（専門知識）、`thirst for knowledge`（知識欲）のようなコロケーションで使われます。

8.

解答 ①

【解説】

正解は①「像、画像、イメージ」です。`image`は、写真・絵画・彫刻などの具体的な「像、画像」から、心の中に抱く「心象、印象（イメージ）」まで、幅広い意味で使われる名詞です。`This camera takes very clear images.`（このカメラはとても鮮明な画像が撮れる）。`The company is working to improve its corporate image.`（その会社は企業イメージの向上に努めている）。②「記事」は`article`、③「報告」は`report`、④「広告」は`advertisement`です。

◆補足：近年では、デジタルデータとしての「画像」を指して`image`が使われることが非常に多いです。動詞の`imagine`（想像する）や名詞の`imagination`（想像力）と関連付けて覚えると、記憶に残りやすいでしょう。

9.

解答 ③

【解説】

正解は③「～を選ぶ、つむ」です。動詞の`pick`には複数の意味がありますが、準2級レベルでは、いくつかある選択肢の中から「～を選ぶ」という意味と、植物から花や果物を「～をつむ」という二つの意味を覚えておくことが重要です。`She picked a beautiful dress for the party.`（彼女はパーティーのために美しいドレスを選んだ）。`We went to a farm to pick apples.`（私たちはリンゴを摘みに農園へ行った）。①「～を投げる」は`throw`、②「～を押す」は`push`、④「～を指す」は`point`が適切な単語です。

◆補足：「選ぶ」という意味では`choose`という類義語があります。一般的に、`pick`はより直感的、日常的に何かを選ぶ際に使われ、`choose`はより慎重に、比較検討して選ぶニュアンスで使われることが多いです。また、`pick up`（拾う、迎えに行く）や`pick out`（選び出す）といった句動詞も非常に重要です。

10.

解答 ①

【解説】

正解は①の`population`で、「人口」またはある地域に住む「全住民」を指します。`The population of this city has been decreasing for several years.`（この都市の人口は数年前から減少し続けている）のように使います。他の選択肢は、②`position`が「位置、地位」、③`portion`が「部分、一人前」、④`pollution`が「汚染、公害」という意味です。つづりや発音が似ているので、混同しないように注意しましょう。

◆補足：コロケーションとしては、`population growth`（人口増加）、`population decline`（人口減少）、`population density`（人口密度）などがよく使われます。`the world population`で「世界人口」を意味します。

11.

解答 ②

【解説】

正解は②の`make up for`で、「～の埋め合わせをする、～を補う、償う」という意味です。失った時間、与えた損害、不足しているものなどを、他の行為や物で補うことを表します。`I sent her some flowers to make up for being late.`（私は遅刻した埋め合わせに、彼女に花を送った）。他の選択肢は、①`make fun of`～が「～をからかう」、③`make use of`～が「～を利用する」、④`make up with`～が「～と仲直りする」という、それぞれ`make`を使った重要な熟語です。

◆補足：`make up`だけでも「化粧をする」「(話を) でっちあげる」「構成する」など多くの意味を持つ重要な句動詞です。`make up for`は、`compensate for`という、よりフォーマルな動詞とほぼ同じ意味で使えます。

12.

解答 ④

【解説】

正解は④「句、成句、言い回し」です。`phrase`は、いくつかの単語が集まって一つの意味のかたまりを作りますが、主語と述語動詞が揃った「文 (sentence)」にはなっていないものを指します。例えば、`in the morning`や`a piece of cake`などが`phrase`です。`He used a difficult phrase in his essay.`（彼は作文で難しい言い回しを使った）。①「単語」は`word`、②「文」は`sentence`、③「段落」は`paragraph`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：文章の構成単位は、小さいものから`word`（語）→`phrase`（句）→`clause`（節）→`sentence`（文）→`paragraph`（段落）のようになります。この階層を理解しておくと、文法用語の理解が深まります。`a key phrase`（重要な言い回し）のように使われることもあります。

13.

解答 ②

【解説】

正解は②の`almost`で、「ほとんど、ほぼ」という意味の副詞です。完全ではないものの、それに非常に近い状態を表します。`It's almost time to go.`（もうほとんど行く時間だ）。`I have almost finished my homework.`（宿題はほとんど終わった）。他の選択肢は、①`already`が「すでに、もう」、③`always`が「いつも」、④`also`が「～もまた」という意味で、つづりは似ていますが意味は異なります。

◆補足：`almost`は`nearly`とほぼ同じ意味で、書き換えが可能な場合が多いです。`almost all`～（ほとんどすべての～）や`almost every`～（ほとんど毎～）のように、`all`や`every`を修飾することもよくあります。`Almost everyone came to the party.`（ほとんど全員がパーティーに来た）。

14.

解答 ③

【解説】

正解は③の`afford`で、「(～する) 余裕がある」という意味の動詞です。特に、何かを買うためのお金があるか、何かをするための時間があるか、という文脈で使われます。`can afford`や`can't afford`のように、助動詞`can`と共に使われることが非常に多いのが特徴です。`We can't afford to go on vacation this year.`(私たちは今年、休暇に出かける余裕がない)。他の選択肢は、①`allow`が「～を許す」、②`achieve`が「～を達成する」、④`accept`が「～を受け入れる」という意味です。

◆補足：`afford`の後ろには、`to do` (不定詞) の形か、名詞が続きます。`I can't afford a new computer.`(私には新しいコンピュータを買う余裕がない)。形容詞形は`affordable`で、「手頃な価格の」という意味になります。`They sell affordable clothes for young people.`(彼らは若者向けの手頃な価格の服を売っている)。

15.

解答 ③

【解説】

正解は③の wedding で、二人が結婚するための儀式である「結婚式」を指します。They had a beautiful wedding by the sea. (彼らは海辺で美しい結婚式を挙げた) のように使います。他の選択肢を見てみましょう。①の marriage は「結婚、婚姻」という、法的な制度や夫婦であるという状態そのものを指します。②の party は「パーティー」、④の meeting は「会議」です。

◆補足：`wedding ceremony` (結婚式)、`wedding reception` (結婚披露宴)、`wedding anniversary` (結婚記念日)、`wedding ring` (結婚指輪) など、`wedding`を使った複合語はたくさんあります。儀式は`wedding`、状態や制度は`marriage`という違いをしっかりと理解しておくことが大切です。

16.

解答 ③

【解説】

正解は③の`be filled with`で、「～で満たされている、～でいっぱいである」という意味の熟語です。容器や場所などが、物や人で内側から満ちている状態を表します。`The stadium was filled with excited fans.`(スタジアムは興奮したファンでいっぱいだった) のように使います。抽象的なもので満たされている場合にも使えます(例: `filled with joy` 喜びに満ちて)。他の選択肢は、①`be covered with`が「～(の表面) で覆われている」、②`be known for`が「～で知られている」、④`be made from`が「～(原料) から作られている」という意味です。

◆補足：`be filled with`は、`be full of`とほぼ同じ意味で、書き換えが可能です。`The drawer is filled with old letters.`と`The drawer is full of old letters.`はどちらも「その引き出しは古い手紙で

いっぱいだ」という意味になります。`fill` (満たす) という動詞の受け身の形だと理解すると分かりやすいですね。

17.

解答 ③

【解説】

正解は③の『introduce』です。この単語は、ある人や物事を、別の誰かに初めて公式に知らせる、という意味を持っています。「人を紹介する」の他に、「新しい制度や技術を導入する」といった意味でも使われます。例えば、学校に新しいルールを紹介したり、新しい友達をクラスメイトに紹介したりする場面で活躍する、とても基本的な動詞です。しっかり覚えておきましょう。また、他の選択肢も大切な単語です。①の『explain』は、何かを分かりやすく「～を説明する」という意味です。物事の仕組みや理由を話すときに使います。②の『discover』は、今まで知られていなかったものを「～を発見する」という意味です。新大陸や新しい星を見つけるようなイメージですね。④の『accept』は、提案や招待、贈り物などを「～を受け入れる」という意味です。このように、それぞれの単語が持つ核心的な意味を理解することが、語彙力アップの鍵となります。

◆補足：『introduce』の名詞形は『introduction』（紹介、導入）です。「自己紹介」は "self-introduction" と言います。例文: "Let me introduce my friend, Ken." (私の友人のケンを紹介させてください。)

18.

解答 ①

【解説】

正解は①「(時間・お金) を費やす」です。動詞の `spend` は、時間やお金を何かの目的のために使うことを表します。`I spent three hours finishing my report.` (私はレポートを仕上げるのに3時間費やした)。
`She spent a lot of money on clothes.` (彼女は洋服にたくさんのお金を使った)。
②「～を節約する」は `save`、③「～を稼ぐ」は `earn`、④「～を浪費する」は `waste` です。これらはお金や時間に関する重要な動詞なので、意味の違いをしっかりと区別しましょう。

◆補足：`spend + 時間 + -ing` の形で「～して時間を過ごす」という構文は非常によく使われます。
`He spent the weekend relaxing at home.` (彼は週末を家でリラックスして過ごした)。
`spend` の活用は `spend - spent - spent` と不規則に変化する点にも注意が必要です。

19.

解答 ②

【解説】

正解は②「しきりに～したがっている」です。`be eager to do`は、何かをしたいという強い願望や熱意を表す表現で、ポジティブな期待感に満ちている状態を示します。`The children were eager to open their Christmas presents.`（子供たちはクリスマスプレゼントをしきりに開けたがっていた）のように使います。①「～するのをためらっている」は`be reluctant to do`、③「～することに慣れている」は`be used to doing`、④「～する義務がある」は`be obliged to do`などが適切な表現です。

◆補足：`eager`は形容詞で「熱心な」という意味です。`an eager learner`（熱心な学習者）。類義語の`be anxious to do`も「～したがっている」と訳せますが、`anxious`には「心配」のニュアンスが含まれることがあるのに対し、`eager`は純粋な期待や熱意を表します。このニュアンスの違いを理解しておく、より細やかな表現ができます。

20.

解答 ①

【解説】

正解は①「～にうんざりしている」です。`be tired of`～`は、何かを何度も繰り返したり、好ましくない状況が続いたりして、精神的に飽き飽きしている、もうたくさんだ、という気持ちを表す表現です。肉体的な疲労を表す`be tired from`～`（～で疲れている）とは区別して使う必要があります。例えば、`I'm tired from playing tennis.`（テニスをして疲れた）は肉体的な疲労ですが、`I'm tired of his constant complaints.`（彼の絶え間ない不平にはうんざりしている）は精神的な疲労を表します。②は肉体的な疲労、③「～に感謝している」は`be thankful for`～`、④「～を恐れている」は`be afraid of`～`が適切な表現です。

◆補足：`be tired of`～`の後ろには名詞のほか、`I'm tired of waiting.`（待つのにうんざりだ）のように動名詞（-ing形）を続けることもできます。類義表現として`be sick of`～`があり、こちらは`be tired of`～`よりもさらに強い嫌悪感や、我慢の限界といったニュアンスを持ちます。

21.

解答 ④

【解説】

正解は④の『teenager』です。この単語は、年齢を表す数字の語尾に "-teen" がつく世代、つまり thirteen (13), fourteen (14), fifteen (15), sixteen (16), seventeen (17), eighteen (18), nineteen (19) までの年齢の人々を指します。日本語の「10代の若者」や「ティーンエイジャー」と全く同じ意味です。単語の成り立ちを知ると、とても覚えやすいですね。他の選択肢も年齢層を表す基本的な単語です。①の『infant』は、まだ歩いたり話したりできない「乳児」や、もう少し大きい「幼児」を指します。②の『adult』は、法的に、また社会的に一人前と見なされる「大人」のことです。③の『child』は、一般的に幼児期から思春期に入る前までの「子供」を指します。それぞれの単語が指す年齢層をしっかり区別しましょう。

◆補足：『teenager』を短くして『teen』と言うこともよくあります。例えば、「10代の悩み」は "teen problems" のように表現できます。この単語は、若者向けのファッション、音楽、映画などの文化について話すときによく出てくるので、覚えておくとニュースや雑誌を読むのにも役立ちます。

22.

解答 ③

【解説】

正解は③の`research`で、「(学術的な) 研究、調査」を意味する名詞です。新しい事実の発見や、既存の知識の検証などを目的とした、体系的な探求活動を指します。`He is a leading expert in the field of cancer research.` (彼はがん研究の分野における第一人者の専門家だ) のように使います。他の選択肢は、①`report`が「報告(書)」、②`resource`が「資源」、④`review`が「復習、批評」という意味です。

◆補足：`research`は動詞として「～を研究する、調査する」という意味でも使われます。`We need to research the market before launching a new product.` (新製品を発売する前に市場調査をする必要がある)。名詞の`research`は数えられない名詞として扱われるのが基本で、`a lot of research`とは言いますが、`a research`や`many researches`とは通常言いません。

23.

解答 ③

【解説】

正解は③の`moment`で、「(ごく短い) 時間、瞬間」を意味する名詞です。`second` (秒) や`minute` (分) のように明確な時間の単位ではなく、漠然とした短い時間を指します。`Just a moment, please.` (少々お待ちください) は、相手を待たせるときの定番の丁寧な表現です。他の選択肢は、①`minute`が「分」、②`second`が「秒」、④`hour`が「時間」と、それぞれ特定の時間の単位を表します。

◆補足：前の問題に出てきた`at the moment` (ちょうど今) のように、多くの熟語で使われます。`from that moment on` (その瞬間からずっと) や、`the moment ...` (～するとすぐに) といった表現も重要です。

24.

解答 ④

【解説】

正解は④「今のところ、ちょうど今」です。`at the moment`は、`now`とほぼ同じ意味で使われる表現ですが、`now`よりも少し丁寧で改まった響きがあります。ビジネスの電話応対などでよく使われます。`Mr. Tanaka is in a meeting at the moment.` (田中は今、会議中です)。①「その瞬間に」は過去

のある一点を指す`at that moment`、②「時間通りに」は`on time`、③「時々」は`at times`や`sometimes`が適切な表現です。

◆補足：`at the moment`は、基本的に現在形または現在進行形と共に使われます。`I'm sorry, but I'm a little busy at the moment.`（すみませんが、今は少し忙しいです）。`the`を`that`に変えるだけで過去の話になるので、その違いに注意しましょう。

25.

解答 ④

【解説】

正解は④「自信がある」です。`confident`は形容詞で、自分の能力や判断、あるいは物事がうまくいくことに対して、強い信頼や確信を抱いている状態を表します。`She felt confident about her performance in the interview.`（彼女は面接での出来に自信があった）。`be confident that ...`の形で「…ということを確信している」と表現することもできます。①「快適な」は`comfortable`、②「有能な」は`competent`や`capable`、③「一貫した」は`consistent`が適切な単語です。

◆補足：名詞形は`confidence`（自信、信頼）です。`He has a lot of confidence in his abilities.`（彼は自分の能力に大きな自信を持っている）。`self-confidence`で「自信」という意味になります。

26.

解答 ③

【解説】

正解は③の`take over`（～）で、「（仕事、責任、会社などを）引き継ぐ」という意味の句動詞です。前任者から役職や業務、支配権などを受け継ぐことを表します。`Who will take over the project when she leaves?`（彼女が辞めたら、誰がそのプロジェクトを引き継ぐのですか？）。他の選択肢は、①`take off`が「～を脱ぐ、離陸する」、②`take in`が「～を取り入れる、だます」、④`take on`が「（仕事や責任を）引き受ける」という意味です。`take on`は新しく始めるニュアンス、`take over`は交代するニュアンスが強いです。

◆補足：`take over`は、ある会社が別の会社を「買収する」という意味でも頻繁に使われます。`The IT giant took over the small startup company.`（そのIT大手は、その小さな新興企業を買収した）。

27.

解答 ②

【解説】

正解は②「最後の、最終的な」です。`final`は、一連の出来事やプロセスの終わりを示す形容詞です。`The final decision will be made tomorrow.`（最終決定は明日下されます）のように使います。①

「最初の」は`first`、③「次の」は`next`、④「以前の」は`previous`がそれぞれ適切な単語です。これらは物事の順序を表す基本的な形容詞なので、セットで覚えておきましょう。

◆補足：`final`は名詞としても使われ、`the final`または`the finals`の形で「決勝戦」や「期末試験」を意味します。`She is studying hard for the finals.`（彼女は期末試験のために一生懸命勉強している）。また、副詞形の`finally`（ついに、ようやく）も非常に重要な単語です。

28.

解答 ④

【解説】

正解は④「割合、率、料金」です。名詞の`rate`は、他の数量との比較で表される「割合、率」や、サービスなどに対して支払われる「料金」を意味します。`the birth rate`（出生率）、`the interest rate`（利率）、`postal rates`（郵便料金）など、経済や統計に関する文脈でよく使われます。①「役割」は`role`、②「規則」は`rule`、③「記録」は`record`です。これらの単語はつづりが似ていますが、意味は全く異なります。

◆補足：動詞としての`rate`は「～を評価する、格付けする」という意味で使われます。`Customers are asked to rate the service on a scale of one to five.`（顧客はサービスを1から5の段階で評価するように求められる）。名詞と動詞の両方の意味を覚えておくと、読解の幅が広がります。

29.

解答 ①

【解説】

正解は①「1日おきに」です。`every other day`は、ある日、その次の日を飛ばして、またその次の日、というように、一日ごとに何かが行われる頻度を表す表現です。`This medicine should be taken every other day.`（この薬は1日おきに服用してください）。②「毎日」は`every day`、③「他の日に」は`on other days`、④「3日間ぶっ続けて」は`for three straight days`などが適切な表現です。「2日に1回（`once every two days`）」とほぼ同じ意味ですが、`every other day`という慣用的な言い方を覚えておくことが大切です。

◆補足：この表現は`day`の部分のを他の期間を表す単語に置き換えることで様々な応用できます。例えば、`every other week`は「1週おきに」、`every other month`は「1ヶ月おきに」、`every other line`は「1行おきに」となります。

30.

解答 ③

【解説】

正解は③の`nature`です。この単語は大きく分けて二つの意味で使われます。一つは、山や川、森林、動植物など、人の手が加わっていないありのままの世界、つまり「自然、自然界」です。もう一つは、人や物がもともと持っている「性質、本質、性格」です。他の選択肢を見てみましょう。①`future`は「未来」、②`culture`は「文化」、④`creature`は「生き物、動物」を意味します。

◆補足：「自然」の意味での例文: `I love spending time in nature.` (私は自然の中で時間を過ごすのが大好きです)。「性質」の意味での例文: `It is human nature to want to be loved.` (愛されたいと願うのは人間の本性だ)。「mother nature」(母なる自然)、「by nature」(生まれつき)といった表現も重要です。

31.

解答 ③

【解説】

正解は③の`display`で、「～を展示する、陳列する」または「(感情・能力などを)示す、表す」という意味の動詞です。博物館に美術品を並べたり、店のショーウィンドウに商品を飾ったりする場面で使われます。`Her paintings are displayed at the local art gallery.` (彼女の絵は地元の画廊に展示されている)。比喩的に、感情や能力などを公に示す意味でも使われます。他の選択肢は、①`discover`が「～を発見する」、②`discuss`が「～を議論する」、④`divide`が「～を分割する」という意味です。

◆補足：`display`は名詞として「展示、陳列」や、コンピュータの「ディスプレイ(画面)」という意味でも使われます。`on display`という形で「展示されて」という熟語として使われることも多いです。`The new models are on display now.` (新モデルが現在展示されています)。

32.

解答 ④

【解説】

正解は④の`future`で、「未来、将来」を意味します。まだ来ていない、これからの時を表す最も基本的な単語です。`Nobody knows what will happen in the future.` (未来に何が起るかは誰にも分からない)のように使います。他の選択肢は、①`past`が「過去」、②`present`が「現在」、③`nature`が「自然、性質」を意味します。`past` (過去)、`present` (現在)、`future` (未来)は時間の流れを表す基本セットとして必ず覚えておきましょう。

◆補足：形容詞としても使われ、`future plans` (将来の計画) や `my future husband` (私の未来の夫) のように名詞を修飾します。コロケーションとしては、`in the near future` (近い将来に) や `a bright future` (明るい未来) などがよく使われます。

33.

解答 ④

【解説】

正解は④の『invite』です。この動詞は、パーティーや食事、イベントなどに誰かを「招待する、誘う」という意味で使われます。"invite A to B" の形で「A を B に招待する」と覚えるのが基本です。この問題のように、誕生日パーティーなどに誰かを招き入れる、という状況で最も直接的に使われる単語です。他の選択肢を見ていきましょう。①の『attend』は、招待された側が「(会議や授業などに) 出席する」という行為を表します。②の『join』は、「(グループや活動に) 加わる、参加する」という意味で、こちらも招待された側の行動ですね。③の『offer』は、何かを「～を提供する、申し出る」という意味で、「招待する」というニュアンスとは異なります。それぞれの立場や行動の違いを理解することが大切です。

◆補足：『invite』の名詞形は『invitation』で、「招待」や「招待状」を意味します。例文: "He got an invitation to a wedding." (彼は結婚式の招待状を受け取った。) 招待されたときは、"Thank you for inviting me." (お招きいただきありがとうございます。) と言うと、とても丁寧な返事になります。

34.

解答 ④

【解説】

正解は④の`photographer`で、写真を撮ることを職業としている人、つまり「写真家、カメラマン」を指します。`She works as a freelance photographer.` (彼女はフリーランスの写真家として働いている) のように使います。他の選択肢は、①`artist`が「芸術家」、②`designer`が「デザイナー」、③`journalist`が「ジャーナリスト」と、それぞれ異なる職業を表します。

◆補足：`photographer`という単語は、`photo-` (光)、`-graph-` (書く、描く)、`-er` (人) という3つのパーツから成り立っています。「光で描く人」と考えると、単語の成り立ちが分かりやすく、記憶に残りやすいですね。名詞の「写真」は`photograph`または`photo`です。`He is a famous nature photographer.` (彼は有名な自然写真家だ)。

35.

解答 ③

【解説】

正解は③「心配、関心事」です。名詞の`concern`は、文脈によって大きく二つの意味で使われます。一つは「心配、懸念」で、何か良くないことが起こるのではないかと不安な気持ちを表します。もう一つは「関心、関心事」で、自分にとって重要で興味のある事柄を指します。`Price is our main concern.` (価格が私たちの主な関心事です)。`There is growing public concern over the issue.` (その問題に対する世間の懸念が高まっている)。①「自信」は`confidence`、②「満足」は`satisfaction`、④「提案」は`suggestion`です。

◆補足：動詞の`concern`は「～に関係する、～を心配させる」という意味です。形容詞形の`concerned`も重要で、`be concerned about ~`の形で「～を心配している」という意味になります。`I'm concerned about his health.` (私は彼の健康を心配している)。

36.

解答 ①

【解説】

正解は①「かなり、むしろ」です。`rather`は副詞として複数の使い方があります。一つは「かなり、相当」と程度を強調する意味で、形容詞や副詞を修飾します。`The test was rather difficult.`（そのテストはかなり難しかった）。もう一つは`would rather do`の形で「むしろ～したい」と好みや選択を表す意味です。`I would rather walk than take a crowded bus.`（混んだバスに乗るよりは、むしろ歩きたい）。②「めったに～ない」は`rarely`、③「いつも」は`always`、④「おそらく」は`probably`です。

◆補足：「かなり」という意味の`rather`は、しばしば話者の意外な気持ちや、好ましくない事柄（`rather expensive`「かなり高価だ」など）に対して使われる傾向があります。`quite`や`fairly`も「かなり」と訳されますが、`rather`はこうした主観的なニュアンスを含むことがあるのが特徴です。

37.

解答 ③

【解説】

正解は③の「国際的な」です。『international』は、"inter-"（～の間の、相互の）と "national"（国の）という二つのパーツから成り立っていることを知ると、意味を覚えやすいかもしれません。「国家と国家の間の」というのが元の意味で、そこから「国際的な」や「国家間の」という意味で広く使われます。例えば、"Narita International Airport"（成田国際空港）のように、国と国とを結ぶ施設やイベントによく使われる形容詞です。②の『domestic』（国内の）は、『international』の明確な対義語なので、セットで覚えておくと非常に便利です。①の『public』は「公共の、公の」、④の『personal』は「個人的な、私的な」という意味で、それぞれ異なる概念を表す重要な単語です。

◆補足：『international』に関連する単語として、『nation』（国、国民）、『national』（国の、国民の）、『nationality』（国籍）などがあります。これらの単語を関連付けて覚えることで、語彙のネットワークが広がり、記憶にも定着しやすくなりますよ。例文: "Soccer is a popular international sport."（サッカーは人気のある国際的なスポーツです。）

38.

解答 ④

【解説】

正解は④「永遠に、永久に」です。`forever`は、終わりなく、いつまでも続くことを表す副詞です。`Some people believe that diamonds are forever.`（ダイヤモンドは永遠だと信じている人もいる）の

ように使います。①「時々」は`sometimes`、②「すぐに」は`soon`や`immediately`、③「ほとんど」は`almost`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`forever`は`for ever`と2語で書かれることもあります（特にイギリス英語）。`It feels like I've been waiting forever.`（永遠に待っているような気分だよ）のように、非常に長い時間であることを強調するために、少し大げさに使われることもよくあります。

39.

解答 ②

【解説】

正解は②の`passage`で、主に二つの意味があります。一つは、本やスピーチなどの文章の「一節、一段落」です。長文読解問題で`Read the passage`と指示されるのがこの用法です。もう一つは、建物の中や二つの場所をつなぐ「通路、廊下」です。`a narrow passage`（狭い通路）。他の選択肢は、①`sentence`が「文」、③`paragraph`が「段落」、④`passenger`が「乗客」という意味です。

◆補足：`passage`は動詞`pass`（通り過ぎる）と関連しています。「通り過ぎていく場所」が「通路」、「文章の中で読み進めていく部分」が「一節」とイメージを繋げると覚えやすいでしょう。`the passage of time`で「時の経過」という意味でも使われます。

40.

解答 ②

【解説】

正解は②の`set up`で、「～を設立する、設置する、準備する」など、非常に幅広い意味で使われる句動詞です。文脈に応じて意味を判断する必要があります。`She set up her own business five years ago.`（彼女は5年前に自身の事業を立ち上げた）。`We need to set up a meeting to discuss the issue.`（その問題を議論するために会議を設ける必要がある）。他の選択肢は、①`set off`が「出発する、～を作動させる」、③`set in`が「(好ましくない季節・天候などが) 始まる」、④`set out`が「出発する、～に着手する」という意味です。

◆補足：`set up`は、よりフォーマルな単語である`establish`（設立する）や`install`（設置する）の代わりとして、日常会話で頻繁に使われます。`set up a computer`（コンピュータをセットアップする）のように、日本語にもなっていますね。

41.

解答 ②

【解説】

正解は②「人間の、人間的な」です。形容詞の`human`は、動物や神、機械などと区別して、「人間」という種に特有の性質や事柄を指すときに使います。`To err is human, to forgive divine.`（過つは人

の常、許すは神の業)ということわざは有名ですね。①「人道的な、思いやりのある」は`humane`で、`human`とつづりが似ていますが意味が異なります。③「人気のある」は`popular`、④「ユーモアのある」は`humorous`です。

◆補足：`human`は名詞として「人間」(`a human being`の略)という意味でも使われます。`Humans have the ability to think and create.`(人間は考え、創造する能力を持っている)。コロケーションとしては、`human rights` (人権)、`the human body` (人体)、`human nature` (人間性) などがあります。

42.

解答 ④

【解説】

正解は④「完全に、すっかり」です。`completely`は、物事が100%の状態で、まったく不足や例外がないことを強調する副詞です。`The town was completely destroyed by the earthquake.`(その町は地震によって完全に破壊された)。`I completely forgot his name.`(私は彼の名前をすっかり忘れてしまった)。①「特に」は`especially`、②「最近」は`recently`、③「正確に」は`exactly`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`completely`は、形容詞`complete` (完全な) に`-ly`を付けて作られた副詞です。類義語には`totally`、`entirely`、`absolutely`などがあり、いずれも「完全に」という強い肯定や合意を表すのに使われます。

43.

解答 ③

【解説】

正解は③「欠席して」です。`absent`は形容詞で、学校や職場、会議など、いるべき場所にいない状態を表します。`be absent from ~`の形で「~を欠席している」と表現するのが一般的です。`Why were you absent from the class yesterday?` (なぜ昨日は授業を欠席したのですか?)。①「出席して」は`present`で、`absent`の明確な対義語です。②「現在の」も`present`と書きますが、意味と発音が異なります。④「注意深い」は`attentive`や`careful`です。

◆補足：名詞形は`absence` (欠席、不在) です。`He explained the reason for his absence.` (彼は欠席の理由を説明した)。`absent`と`present`は、学校の出欠確認などでも使われる基本的な単語なので、必ずセットで覚えておきましょう。

44.

解答 ①

【解説】

正解は①「全体の、すべての」です。形容詞の`whole`は、何かが一部分欠けることなく、丸ごと全部ある状態を表します。`I spent the whole day cleaning my room.`（私は丸一日、部屋の掃除をして過ごした）。通常、`the`、`my`、`a`などの限定詞の後に置かれます。②「半分の」は`half`、③「一部の」は`part of`、④「空の」は`empty`です。

◆補足：`whole`と`all`はどちらも「すべての」と訳せますが、語順が異なります。`the whole day`（その日全体）と`all day`（一日中）はほぼ同じ意味ですが、`whole`は`the`の後に、`all`は`the`の前に来るのが一般的です。また、`hole`（穴）と発音が同じ同音異義語なので、リスニングやスペリングには注意が必要です。

45.

解答 ③

【解説】

正解は③の`education`で、「教育」を意味する名詞です。知識や技能を教えたり、人格を育てたりする、学校や家庭などで行われる体系的な活動全般を指します。`A good education is essential for a child's future.`（良い教育は子供の将来にとって不可欠だ）のように使います。他の選択肢は、①`emotion`が「感情」、②`election`が「選挙」、④`estimation`が「見積もり、評価」という意味で、つづりは似ていますが意味は全く異なります。

◆補足：`education`の動詞形は`educate`（～を教育する）、形容詞形は`educational`（教育的な）です。`This TV program is very educational.`（このテレビ番組はとても教育的だ）。コロケーションとしては`higher education`（高等教育）や`physical education (P.E.)`（体育）などがよく知られています。

46.

解答 ①

【解説】

正解は①の`sightseeing`で、「観光、名所見物」を意味します。`sight`（光景、名所）を`seeing`（見ること）するという、単語の成り立ちからも意味が分かりやすいですね。`We spent the whole day sightseeing in Rome.`（私たちはローマで一日中観光をして過ごした）のように使います。他の選択肢は、②`traveling`が「旅行すること」、③`tripping`が「つまづくこと、旅行」、④`viewing`が「見ること、観覧」を意味します。観光という特定の目的を持つ活動は`sightseeing`が最も適切です。

◆補足：「観光に行く」は`go sightseeing`という決まった言い方をします。`I'd like to go sightseeing around the city.`（街を観光して回りたいです）。「観光客」は`tourist`、「観光バス」は`a sightseeing bus`、「観光名所」は`a tourist attraction`や`a historic site`などと表現します。

47.

解答 ②

【解説】

正解は②の`task`で、「(割り当てられた) 仕事、任務、課題」を意味する名詞です。特に、しなければならぬ個々の具体的な作業を指します。`The first task is to gather all the necessary information.`

(最初の任務は必要な情報をすべて集めることだ)。他の選択肢を見てみましょう。①`job`は給料をもらう「職業」を、③`work`はより一般的な「労働、作業」を、④`hobby`は「趣味」を指します。

◆補足：`task`, `job`, `work`はどれも「仕事」と訳せますが、`work`は最も広義で数えられない名詞、`job`は具体的な職業で数えられる名詞、`task`は個々の作業で数えられる名詞、という違いがあります。コロケーション: `a daily task` (日課)、`a difficult task` (難しい任務)、`complete a task` (任務を完了する)。

48.

解答 ③

【解説】

正解は③の`recent`で、「最近の」という意味の形容詞です。過去から現在までの比較的短い期間内に起こった、あるいは存在した事柄を表します。`According to a recent survey, more people are working from home.` (最近の調査によると、在宅勤務をする人が増えている) のように、名詞を修飾します。他の選択肢は、①`ancient`が「古代の」、②`modern`が「現代の」、④`present`が「現在の」という意味で、それぞれ異なる時代を指します。

◆補足：`recent`の副詞形は`recently`で、「最近」という意味で文全体を修飾し、主に過去形や現在完了形と共に使われます。`Have you seen him recently?` (最近彼に会いましたか?)。`in recent years` (近年) や `recent developments` (最近の動向) といったコロケーションも重要です。

49.

解答 ④

【解説】

正解は④の`specific`で、「明確な、具体的な、特定の」という意味の形容詞です。`general` (一般的な) の対義語で、漠然としたものではなく、はっきりと限定された事柄を指します。`The doctor gave me specific instructions on how to take the medicine.` (医者は私にその薬の飲み方について具体的な指示を与えた) のように使います。他の選択肢は、①`special`が「特別な」、②`severe`が「厳しい、深刻な」、③`simple`が「簡単な、単純な」という意味です。

◆補足：`specific`は、より詳しい情報や正確さを求めるときによく使われます。動詞形は`specify` (〜を明確に指定する)、副詞形は`specifically` (特に、具体的に言うと) です。コロケーションとしては、`a specific reason` (特定の理由)、`specific details` (具体的な詳細) などがあります。

50.

【解説】

正解は③の`check`で、「～を調べる、点検する、確認する」という意味の動詞です。何かが正しいか、安全か、あるいは問題がないかなどを確かめる行為を指します。`Please check your e-mail for a confirmation message.`（確認メッセージが届いていないか、メールをチェックしてください）のように使います。他の選択肢は、①`change`が「～を変える」、②`choose`が「～を選ぶ」、④`chase`が「～を追いかける」という意味です。

◆補足：`check`は名詞として「点検、検査」や「小切手」、「勘定書」（米語）など、多くの意味を持ちます。また、`check in`（搭乗・宿泊手続きをする）、`check out`（会計を済ませて出発する）、`check up`（健康診断）など、`check`を使った句動詞も日常生活で頻繁に使われます。
